

地域再生の鍵は「稼ぐ力」

～「コト」「モノ」「トキ」で観光消費額増へ～

県立大佐世保校地域創造学部実践経済学科の学生たちが、2019年度から東彼波佐見町の観光や地場産業をテーマにした調査研究に取り組んでいます。地域再生の鍵は「三つの稼ぐ力」と説く同大の竹田英司准教授と、波佐見焼振興会の児玉盛介氏が同大と地域の関わりや、調査研究を通じて見えてきた課題などについて語り合いました。

県立大 地域創造学部実践経済学科 准教授 **竹田 英司氏** **対談** 波佐見焼振興会 会長 **児玉 盛介氏**



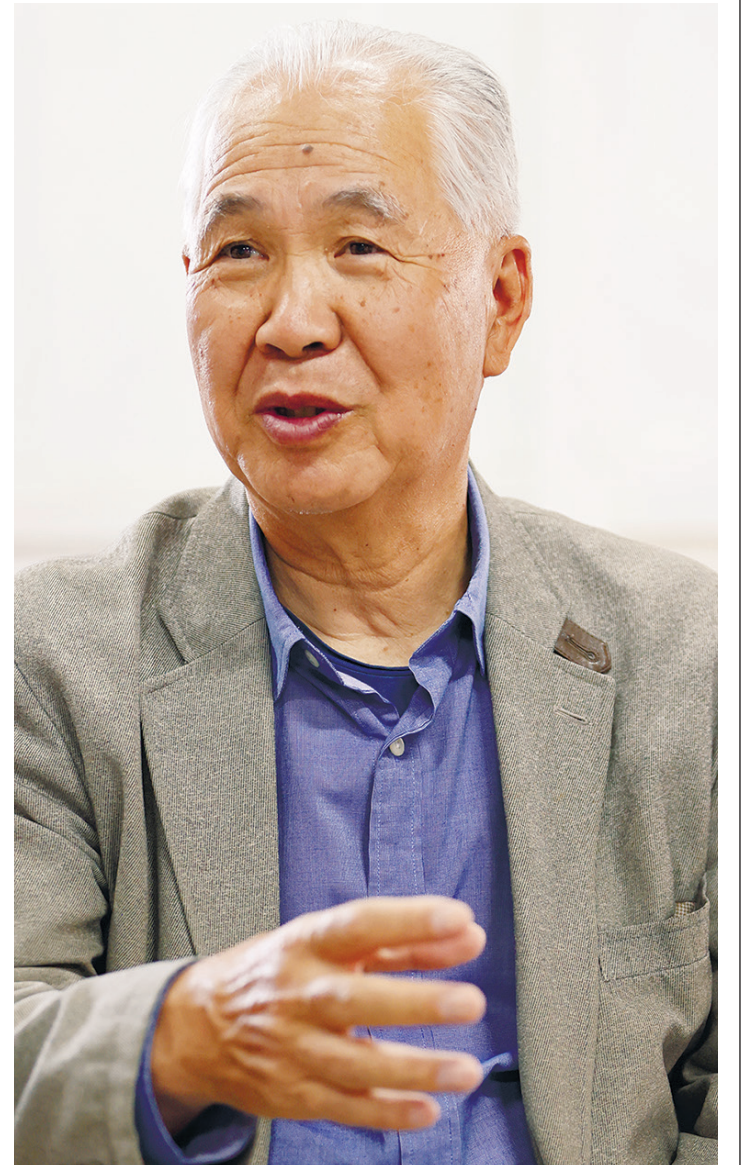
(たけだ・えいじ)奈良県生駒郡出身。筑波大大学院システム情報工学研究科経営・政策科学専攻修了、大阪市立大大学院創造都市研究科創造都市専攻修了。2019年4月から現職。共著編に「笑うツーリズム」など。

地場産業を観光資源化

竹田 20年秋に波佐見町を訪れた消費者は、長崎県内、福岡県、佐賀県の順に多く、30〜40代が全体の約60%を占めています。リピート率が86%とかなり高いことも特徴です。夏・秋は3458円でした。コロナ収束後、消費額を上げるためには30〜50代のランチ消費額を波佐見を増やせ、年齢層が下がるべくランチ消費額が増えるという二つの傾向も分かっています。その中でも波佐見焼の購入率とランチ消費額が必ずしも60%を超えていたのは40代。つまり波佐見町に訪れる一番のお客さまは40代ということになります。

児玉 波佐見焼振興会の会長に就任して10年以上経ちましたが、当初は活性化に向けた方向性が見えない状態でした。伝統はあっても産地とトキはイベントなどで、その時、その場でしか買えないモノやサービスです。波佐見町の1人当たりの観光消費額は、新型コロナウイルス感染症拡大前の19年度までは4703円だったのに対して、コロナ禍の20年「西の原」(同)を立ち上げました。10数年前は波佐見を目指してお客さまが来るなんて想像できませんでした。今ではくらわん館から西の原へ

第二の「西の原」構想中



(こだま・もりすけ)東彼波佐見町出身。1972年に西海陶器入社。83年、社長就任。県陶磁器元卸商業協同組合理事長などを2008年から現職。21年4月に旭日日光賞を受賞。

竹田 波佐見町の観光消費額などを調べるマーケティング調査は継続したいです。これからは学生たちの方から波佐見に関わりたいという声が上がってくるのを期待しています。学生たちには、消費者が波佐見町で波佐見焼や工房を見て楽しんだり、観光ガイドさんや職人さんからの地域の歴史や文化を学んだりする「来て」「見て」「学んで」「体験して」「お金を使う」という経済行為について考えてほしいです。

児玉 以前は大学と産業が組んで何かしようという考えはありませんでしたが、竹田先生のようにアカデミックな視点での意味付けをしてもいいなという考えも出てきています。有田焼の文脈はたくさん残っているのに対して、波佐見焼はほとんど残っていませんでした。そこで県立大の協力を得て、波佐見焼に携わる我々の思いを記録し、書籍化することでもできました。地域と一緒に課題を解決することこそ、地方に存在する大学としての意義があると思います。評価しています。それと一つ、県立大に美術工芸学科をつくるという学部があれば、もっと地域と組むことができると思います。

竹田 地方創生とは人口減少が進む中で地域経済活性化のことです。地域の稼ぐ力である地場産業がなければ、地域の持続的な成長はありません。個人仕様の多様な消費・モノ消費・トキ消費によって「地域の稼ぐ力」を上げることが「地場産業の産業観光化」や「クラフトツーリズム」であり、地方創生に対する一つの答えだと考えています。私が考える実践的経済教育とは現場で消費者や生産者の声を聞き大学で学んだ経済活動と照らし合わせることで、何を学んだのかをどのように学んだのかをその学びが必要なのかをしっかりとその学びを使うのか。学生たちが地域に向かうことで、この四つを振り返ることができればと思っています。

竹田 地方創生とは人口減少が進む中で地域経済活性化のことです。地域の稼ぐ力である地場産業がなければ、地域の持続的な成長はありません。個人仕様の多様な消費・モノ消費・トキ消費によって「地域の稼ぐ力」を上げることが「地場産業の産業観光化」や「クラフトツーリズム」であり、地方創生に対する一つの答えだと考えています。私が考える実践的経済教育とは現場で消費者や生産者の声を聞き大学で学んだ経済活動と照らし合わせることで、何を学んだのかをどのように学んだのかをその学びが必要なのかをしっかりとその学びを使うのか。学生たちが地域に向かうことで、この四つを振り返ることができればと思っています。

笑うツーリズム
HASAMI CRAFT TOURISM
「笑うツーリズム」で学んだこと
「笑うツーリズム」で学んだこと
「笑うツーリズム」で学んだこと

「観光地・波佐見」を発信 笑うツーリズム

ものづくりと観光を多角的な視点でひもどき合わせた「クラフトツーリズム」の産業観光化を目指す東彼波佐見町の関係者が、町の歴史や文化、観光資源やまちづくりを題材に、食文化、景観など観光資源に、波佐見町を観光資源として発信する書籍「笑うツーリズム」(石風社)を、焼振興会を企画の狙いとした。昨年2月には、21年に刊行。波佐見焼の知名度向上とともに、参加した全国大会も同波佐見の過去と未来を町で開かれています。

竹田 地方創生とは人口減少が進む中で地域経済活性化のことです。地域の稼ぐ力である地場産業がなければ、地域の持続的な成長はありません。個人仕様の多様な消費・モノ消費・トキ消費によって「地域の稼ぐ力」を上げることが「地場産業の産業観光化」や「クラフトツーリズム」であり、地方創生に対する一つの答えだと考えています。私が考える実践的経済教育とは現場で消費者や生産者の声を聞き大学で学んだ経済活動と照らし合わせることで、何を学んだのかをどのように学んだのかをその学びが必要なのかをしっかりとその学びを使うのか。学生たちが地域に向かうことで、この四つを振り返ることができればと思っています。

学生プロジェクトが始動

若者目線でツアー構築
多言語化した看板製作

波佐見焼を作る楽しさをどのように消費者へ伝えるか職人さんと議論する田中さんと後山さん(右)＝東彼波佐見町

<p>経営学部 就職実績 佐々木冷蔵、十八親和銀行、佐世保市総合医療センター、アクセンチュア、SBSホールディングス、シモハナ物流、住友生命保険相互会社、トーマツ、トランスコスモス、ニーズウェル、ブルボン、パイロール、リコージャパン、長崎県警</p>	<p>国際経営学部 就職実績 アイティアイ、大阪鋼管、エフコープ生活協同組合、佐川グローバルロジスティクス、鳥越製粉、トランスコスモス、日本アイ・ビー・エム、日本通運、福岡倉庫、不二貿易、富士通セナラル、三菱電機プラントエンジニアリング、山崎製パン</p>	<p>地域創造学部 就職実績 チュウリツヒ保険会社、長崎銀行、長崎県商工会連合会、えがお、電通国際情報サービス、丸三証券、明治安田生命保険相互会社、九州経済産業局、長崎県、福岡県、大分県、宮崎県、長崎市、福岡市、大分市、鹿児島市、長崎県警</p>	<p>実践経済学部 就職実績 ジャパネットホールディングス、協和機工、長崎県公立大学法人、イズミ、NECネクサソリューションズ、大和冷機工業、中興化成工業、トランスコスモス、パイロール、三菱電機ロジスティクス、長崎税関、長崎地方裁判所、長崎労働局、島根県、長崎県</p>
<p>国際社会学部 就職実績 オリックス生命保険、十八親和銀行、チュウリツヒ保険会社、ディーエスブランド、ニーズウェル、松藤グループ、青山商事、関通、エプソン販売、双日、西日本鉄道、国際物流事業本部、ラルフローレン、長崎市、九州文化学園、純心女子学園</p>	<p>情報システム学部 就職実績 NBC情報システム、NDKCOM、メルコアドバンストデバイス、京セラコミュニケーションシステム、さくら情報システム、ゼンリン、東京ソフトウェア、ピーワイエス、総務省九州総合通信局、長崎市、全国健康保険協会</p>	<p>看護学部 就職実績 諫早総合病院、大村市民病院、済生会長崎病院、佐世保中央病院、長崎原爆病院、長崎原爆諫早病院、長崎北病院、長崎大学病院、九州医療センター、九州がんセンター、国立がん研究センター中央病院、福岡大学病院</p>	<p>栄養健康学部 就職実績 進徳保育園、住吉こども園、大光食品、長崎大学病院、あきんどスシロー、魚国総本社、栄美メディックス、シダックス、日清医療食品、リョウユーパン、LEOC、厚生労働省管轄検査所(東京検査所)</p>

就活であふれるバイタリティ! 学部・学科再編によって、より実践的な学びを修了した学生達は、就職活動において多くの企業から高い評価を得ています。